

めぐみイエス・キリスト教会

2023年4月2日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第651号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌392「主の愛の汝が内に」 p. 631

【交読文】 No.29 詩篇第95篇 p. 903

【賛美Ⅱ】 新聖歌127「墓の中に」 p. 178

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「復活の日の朝」

【聖書朗読】 マタイの福音書27章26節～51節前半
(新約p. 61上段左端)

【礼拝説教】 《主イエスの十字架》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.「バラバ」とは？

※マタイの福音書27章16節～17節「ピラトの最終裁判」 (新約p.60)

27:16 そのころ、バラバ・イエスという、名の知れた囚人が捕らえられていた。

27:17 それで、人々が集まったとき、ピラトは言った。「おまえたちはだれを釈放してほしいのか。バラバ・イエスか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」

※ルカの福音書23章19節「エルサレムでの暴動」 (新約p.169)

23:19 バラバは、都に起こった暴動と人殺しのかどで、牢に入れられていた者であった。

●ポイント2.「シモン(シメオン)という名のクレネ人」とは？

※マルコの福音書15章21節「ヴィラ・ドロローサにおいて」(新約p.103)

15:21 兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。彼はアレクサンドロとルフオスの父で、田舎から来ていた。

●ポイント3.「二人の強盗」とは？

※ルカの福音書23章39節～43節「十字架上において」(新約p.171)

23:39 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。

23:40 すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」

23:41 おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」

23:42 そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」

23:43 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、私とともにパラダイスにいます。」

●ポイント4.「神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた」こととは？

※ヘブル人書10章19節～20節「真の大祭司主イエス」(新約p.450)

10:19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

◎先週の礼拝メッセージ【ラザロのよみがえり】

《今年のイースター礼拝は4月9日となります。今回は「ラザロのよみがえり」について、もう一度共に、考えて見たいと思います。

主イエスは、公生涯を始める前から、ベタニアのマルタとマリア姉妹、そして弟ラザロとは親しい間柄であったことが、ローマの一世紀の公文書には書かれています。と言うことは、主イエスは、何度もエルサレムに来られ、そしてベタニアを訪れていたことが分かります。

主イエスは公生涯において、弟子たちに三度も「受難予告」をされました。しかし、最後には必ず「三日目によみがえられる」ことを預言されたのです。弟子たちには、さっぱり理解出来ませんでした。

愛する友人のラザロが病気になり死んでしまったことも、実はすべてが神の摂理の中における出来事であって、主イエスを通して、父なる神様が栄光を受けられる為でもあったのです。主イエスは、マルタから使いの者が来てから、あえてその場所に二日とどまります。そこからベテニアまで移動するには、少なくとも二日はかかったようです。「主よ。もしここにいて下さったならラザロは死ななかつたでしょうに。」
「その石を取りのけなさい。」

「主よ、もう臭くなっています。四日になりますから。」

「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。父よ、あなたが私を遣わされたことを、彼らが信じるようになるために。ラザロよ、出て来なさい。」

すると、ラザロは手と足を長い布で巻かれたまま出て来たのです。ラザロはよみがえりました。しかし、彼は生き返ったのであって、やがて再び死ぬこととなります。主イエス様もよみがえられました。しかし、ラザロとは違い、栄光の体でよみがえられたのです。

この「ラザロの奇跡」は、主が、十字架から三日目によみがえることを、愛する弟子たちに信じさせる為のひな形でもあったのです。》

◎お知らせ

※次回イースター礼拝は、4月9日(日)午前10時からです。